

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「あたたかい暮らし」健康な笑顔、敬うところ、責任ある行動を理念にあげている。	○	事業所の開所当時の理念と入所者からの視点の理念を加えている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	ホーム内に理念を掲示し、毎朝復唱している。		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	玄関前に理念を掲示しており、運営推進会議では説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近隣にあまり住宅がないが併設しているデイサービスの利用者が馴染みで気軽に立ち寄ってくれる。		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の行事には参加しているが、自治会や地域活動の参加まではできていない。	○	地域の老人会に参加できるよう進めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設のデイサービスの利用者が気軽に寄れる雰囲気を作るよう努めている。	○	今後どういう形で取り組んでいけるか話し合い、取り組んでいきたいと努めている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価作成にあたり職員で話し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で評価の報告また、それによる改善点などを報告している。	○	評価結果後スタッフ会議等で具体的改善案を出し合いできる事から改善するよう努力したいと考えている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議では、地域包括支援センターからも参加してもらい、話し合っている。	○	今後運営推進会議の中で積極的な意見の交換をし、具体的な取り組みをしたいと考えている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人の全体研修で勉強会を設けておりGHの他の職員に内容を回覧している。また相談があった場合、支援できる体制作りができています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度のスタッフ会議でも課題の中で何度か話しあっており、虐待が見過ごされないよう職員の意識の統一を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>契約の際は十分な説明を行い、納得していただいている。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>苦情処理の担当者を掲示し、相談しやすい体制を整えている。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>毎月の請求書と併せて、藍香だよりや預かり金出納帳を送付し、入居者の近況について報告している。身体状況に変化があれば、随時電話連絡している。家族会の際に、職員の異動等ある場合は報告し、職員の名前を掲示して分かりやすくしている。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>苦情処理の機関を設け担当者、第三者委員を設けている。</p>	○	意見箱を設置していますが、あまり入っておらず家族会や日常の会話の中から意見、苦情、不満を聞ける環境づくりに気を配っている。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>スタッフ会議の報告を回覧している。また、面接時にも意見を進言している。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>必要に応じて業務の見直しをその都度行い、入居者の希望に添えるサービスができるよう工夫している。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>やむを得ず職員の異動を行う場合は、できるだけ顔見知りであるユニット間での異動で職員数を満たすように努め、新規職員や併設他事業所からの異動がある場合は、既存の職員も一緒に配置して、入居者の不安やダメージを最小限に抑えるように配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	今後も積極的に交流し、職員の意識の向上を目視していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と必ず面談を行い、身体的状況や周辺状況などを総合的に考慮し、GHでのサービス提供がその方にとって適切かどうかを判断している。状況に合わせて、併設サービスやその他のサービスなどを紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはできるだけご本人に施設見学をしていただいている。可能であれば併設デイサービスやショートステイを利用いただき、日中GHに遊びに来ていただくことで徐々に慣らしていく取り組みなども実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや行事など、入居者から助言や励ましを頂く機会がある。何気ない会話などから、体験談や思いなどを共有し、信頼関係を築けるように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時の会話や電話連絡、家族会などでご本人の近況について相談したり、今後のサービスについての意見をいただいたりしている。敬老会や遠足など、ご家族も一緒に参加していただく機会を作り、共にご本人の支援に関わっていただるように努めている。	○	敬老会や行事への参加はまだ一部のご家族だけなので、もっとたくさんの方に参加していただけるようにしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族の生活環境や生き立ちなど、教えて頂ける範囲で聴き取り、より良い関係作りに役立てている。面会時はホールで皆と一緒に過ごしていただく、居室でご家族とだけで過ごしていただくなど、状況に応じて配慮するようにしている。その他は「自己評価項目No. 28」と同様。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設デイサービスを利用中のご友人やご近所の方が遊びに来る機会がある。外出行事の目的地に皆の馴染みの場所を入れるなど、懐かしいと思えるような時間を提供できるように努めている。	○	馴染みの支援ができていけるのは一部の入居者だけなので、他の方にも色々な方法で支援できるようにしたい。例えばお墓参りに行けるような体制作りなども検討してみたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	元気な方に重介護度の方の簡単な介助を手伝っていただいたり、仲の良い者同士の助け合いの場面では、職員が手を出しすぎないように配慮するなど、支え合いの関係を大切にしている。	○	重介護度の方で行動障害がある方などは、ユニットでも孤立しがちで、攻撃の対象となりがちなので、できるだけそうならないような環境作りに努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や在宅復帰などのため退居された方で、介護サービスが必要となりそうな場合には、病院やご家族と今後についての相談をしたり、併設サービスやその他のサービスとの調整をするなど、支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人とご家族の思いや希望を聴き取り、その後も普段の会話や生活の様子などから、できる限り把握するように努めている。聴き取りが困難な場合は、ご家族と相談しながら、より本人本位のサービスになるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人とご家族のこれまでの生活環境や生い立ちなど、教えていただける範囲で聴き取り、その後も普段の会話や生活の様子などから、できる限り把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	現在の状態については、毎日の生活の中で常に注意深く観察し、何か気付いたことがあれば、職員間の連絡ノートや毎日の申し送り、スタッフ会議などを活用し、全員が周知徹底できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人とご家族の思いや希望を第一に、職員の気づきやアイデア、主治医や看護師の意見なども含めてカンファレンスで話し合い、介護計画の作成を行っている。	○	面会にあまり来てくれないご家族や、連絡の取り難いご家族との話し合いや聴き取りが十分ではない。ご家族の生活状況なども考慮し、今後は相談の手段として家庭訪問なども検討してみたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化や、新しい思いや希望が出てきた場合の見直しは、その都度話し合いをし、直ぐにサービスの提供はできているが、計画書としての作成が遅れがちで、ご家族への説明や3ヶ月毎の定期間での見直しも徹底できていない。	○	計画変更毎の計画書作成と、最低3ヶ月毎の定期での見直し、ご家族への説明などを徹底する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人個人の24時間365日の介護記録があり、生活の状況や変化のあったこと、職員の気づきなどもまとめて記入されている。カンファレンスや申し送りにも活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や買い物、美容院やご家族との外出など、その時々々の状況や要望に応じて、柔軟な支援ができるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月セラピードッグや傾聴ボランティア、大正琴クラブなどでボランティアの方に来ていただいている。入居者の施設外離出があった場合の、近隣警察への協力要請ができています。専門学校や大学などの実習生の受け入れも行っている。運営推進会議で民生委員にもご協力いただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	心身の状況や、ご本人、ご家族の意向などで、他サービスが必要となった場合には、併設サービス事業所も含む他サービスの担当者と相談をし、支援していくよう努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今現在運営推進会議の他で、地域包括支援センターと協働していることはない。	○	今後もし必要があれば、地域包括支援センターとの協働について、その方法や内容などを検討したい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院だけに限らず、以前からのかかりつけ医や、ご本人、ご家族の希望病院への受診など、状況に応じて柔軟に支援できるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設事業所へ月1回の専門医による往診があり、併せて診察して頂いている。それ以外でも都度受診や電話相談を受けて頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設事業所の看護師による毎日日中の訪問と、24時間の電話相談体制が整備されており、日常的に状態の観察、把握が行われている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は、ご家族や病院の担当職員と相談しながら、今後の対策や退院に向けての支援ができるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化について、常時医療が必要になった場合は退居していただくことを入居時から説明しており、状態に合わせてご家族にお話していくようにしている。ターミナルケアや看取りについて、今現在の方針としては実施しない。	○	今後入居者の重度化が予想されるため、必要に応じてターミナルケアや看取りについて検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	できること、できないことの見極めは、医療の度合いで判断しており、それまでについてはできる限りの支援をしていくように努めている。その他は「自己評価項目No. 47」と同様。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居の際にはご本人、ご家族、担当者、関係者間で話し合いや必要な情報の交換を行い、適切な支援ができるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの性格や人格を把握し、その方に合わせた言葉遣いや対応を心掛けている。職員に対して、個人情報についての誓約書記入を義務づけ、プライバシーに配慮したサービス提供が行われるように努めている。	○ 個人の介護記録やチェック表が、共有スペースの見える所に置いたままになっていることがあるので注意したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定を第一に、わかりやすく説明し、常にご本人に選択決定して頂けるように努めている。自己決定が難しい方には、ご本人の思いや希望に近いものが提供できるように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活を行う上での基本的な一日の流れを確保しながら、入居者本位を第一に、できる限りその方のペースや希望に合わせて支援するように努めている。職員人数が少ない時や、時間に迫られた場合は、業務優先になってしまっていることがある。	○ 業務優先にならないような体制作りと職員教育を実施していきたい。入居者本位が主動しすぎて、その他の大切なことが疎かになっている場合があるので、バランスを大切にしたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自己決定を第一に、その方らしさを支援できるように努めている。自己決定の難しい方については、その方に合ったものを提供できるように努めている。理美容については、ご家族の希望も聴きながら、希望の場所に行ける様に支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの決定から食材の買出し、調理、後片付けまで、入居者と職員が一緒に行っている。金銭的な面から、同じものを食べているのは検食担当の職員のみで、他職員は各自持参のものを食べている。	○ 参加頂いている入居者は、一部の決まっている方のみなので、それぞれの状態に合わせて皮むきだけや、テーブル拭きだけなど、他多数の方にも参加していただけるようにしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品については入居時や間の会話などからお聴きし、心身の状態に合わせて支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時のトイレ誘導に加えて、その日の体調やその方のトイレサインに合わせて支援している。排泄チェック表を記録し、便秘への対応も注意して行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員人数の都合から、朝9時頃～夕方17時頃という大まかな時間は決めてしまっている。清潔保持と感染症予防の観点から、最低1回/2～3日という回数を確保しながら、自己決定ができる方についてはできる限り希望を優先するようにしている。自己決定が難しい方については、できるだけご本人の思いや希望に近いものが提供できるように努めている。	○	身体的にほぼ自立した方にのみ、試験的に夜間入浴(17時以降)を実施している。まだ課題はたくさんあるが、できれば軌道に乗せて、今後も実施していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中も状態に合わせて昼寝を実施したり、居室で休むのが不安な方は共有スペースでのうたた寝や、事務室でのくつろぎなど、提供できるように努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個人個人に合わせて、食事作りや洗濯物、買出しなどの役割を普段の生活の中でもって頂き、張り合いや喜びのある日々につながるように努めている。普段の生活の中で散歩や歌、犬とのふれあいなど、気晴らしや喜びにつながるような場面作りを大切にしている。	○	役割を持って意欲的に過ごしているのは一部の方なので、それぞれの状態に合わせて、張り合いや喜びを感じられる場面がもっと提供できるようにしたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方にはご家族と相談して所持していただき、買い物で使用していただいている。ご自分で管理できない方はお預かりし、状態に合わせて支払いの行動のみを行っていただくなど、実施している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事として遠足や外食を実施している他に、入居者のご希望や職員からの呼びかけで、散歩やドライブに出たり、園庭で日光浴をしたりと、外出の支援に努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見や初詣、遠足などの外出行事や、外食で入居者のご希望の場所も目的地に入れるようにしている。団体での行事や、希望の多い所への外出が割りに多いので、もっと小さい単位でお一人おひとりの希望に即した支援ができるようにしたい。	○	歌がお好きな人にはカラオケBOX、釣りがお好きな人には海岸釣りなど、趣味嗜好に合った外出支援も検討したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からご希望がある場合には、電話のお手伝いをしたり、手紙の代筆、投函なども支援している。居室内に電話を引いている方もいらっしゃる。	○	ご希望のない方については電話や手紙のやり取りがないが、特に用事がなくても「元気にしてる？」など、お手伝いしてこちらから連絡を取ってみるのも良いかもしれない。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会や訪問があれば挨拶や声かけは当然の事、お茶をお出して職員も一緒に世間話に加わるなど、居心地の良い雰囲気作りを心掛けている。状況に応じて共有空間、個室どちらでも過ごせるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対するマニュアルがあり、スタッフ会議などで話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	言葉による拘束など、無意識の内に起こってしまっていることがあるので、周知徹底していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフ会議などで話し合いながら、施錠をしないケアに取り組んでいる。徘徊がある方について、行動範囲や思いなどを把握し、施錠以外の方法で安全確保できるように努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中必ず誰か1人は共有スペースの見守りにつける体制ができており、夜間は定時の居室巡回が行われている。居室への出入りはノックや声かけが実施され、プライバシーにも配慮するよう心掛けている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室内のベッドや物品はそれぞれの方に合わせて配置され、ご自分で管理できない方の刃物などは預かるようになっている。共有空間に置かれている包丁は、夜間収納棚を施錠するようになっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各種対応マニュアルを作成し、急変時の対応訓練や避難訓練など、勉強会や訓練が年に数回実施されている。一人ひとりの状態に応じて食事形態が考慮されており、薬剤管理も実施されている。園外離出や災害時などは、近隣職員が緊急招集される体制ができています。	○	一部マニュアルが旧式だったり、訓練が不定期で統一されおらず、パートや派遣職員への実施が徹底できていないので、今後改善していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	「自己評価項目No.69」と同様。	○	「自己評価項目No.69」と同様。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「自己評価項目No.69」と同様。	○	「自己評価項目No.69」と同様。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に、予想されるリスクについてご本人やご家族と相談し、対応策を考えている。入居後も、状態の変化に合わせて出てきたリスクについて、随時ご本人やご家族と話し合っている。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックに加え、「いつもと何か違う。」を見逃さないように、全職員が意識しながら状態観察を心掛けている。異変を発見した場合は状況に合わせて、併設事業所看護師相談、主治医相談、受診、救急搬送など、速やかな対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに合わせた薬の説明書が一覧ファイルにされており、服薬の支援に活用されている。薬に変更のあった場合は、職員同士が申し送りや連絡ノートで注意を呼びかけ、総合的な支援に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表、食事水分摂取量チェック表をつけ、現状を正確に把握するように努めている。食事やおやつ、水分補給時に、乳製品や食物繊維が摂取できるようなメニュー作りをしたり、散歩など運動への呼びかけにも努めている。	○	慢性的な便秘の方もいらっしゃるため、主治医とも相談しながら、下剤や浣腸などを今後も上手く活用していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた毎食後の口腔ケアを実施している。必要な方には歯科受診も実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週間献立表を作成し、併設事業所の栄養士に栄養バランスをチェックしてもらっている。食事水分摂取量を記録し、一人ひとりの状態を把握している。病状に合わせて代替食や摂取量制限なども実施している。摂取量が少ない方には、食べられるものを捕食として提供している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを作成し、スタッフ会議などで話し合いながら取り組んでいる。職員、入居者の手洗い、食器の消毒など実施している。	○ 家庭でできる範囲の事しか行っておらず、今後はもう少し徹底した対策を検討していきたい。チェック表の作成など、確実に実施できるような方法を検討していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用の使い捨て手袋を使用したり、調理器具や食器の消毒を実施している。食材については前日購入で、魚介類や生ものなどは当日に購入するようにしている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関脇で犬を飼っていたり、鉢植えが置いてあったりと、親しみが感じられるように思う。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内はカーテンや扉によって調光され、調理の音や匂いなど、生活感が感じられるようになっている。入居者と一緒に作った毎月のカレンダーや、季節の花や写真など、居心地の良い環境作りに努めている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の好きな居場所を聞き、できるだけ居心地の良い環境を提供できるように、ソファやテーブルの配置を工夫している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物品については、基本的にご本人の希望にそって配置しており、馴染みの物の持込についても、危険な物以外は特に制限はない。仏壇を置いたり、ご家族の写真を飾ったり、畳を敷いたり、のれんをかけたり、その方によって様々である。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時やトイレ介助、おしめ交換の時は換気に注意し、必要があれば消臭剤なども使用して配慮している。季節に合わせてエアコンや加湿器を使用し、温度管理に注意して実施している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、共有空間設備には手すりやナースコールが設置されている。必要があればその方に合わせて居室内の手すりを追加するなど実施している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口や共有設備には目印やのれんがかけられ、混乱や失敗を防ぐ工夫がされている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関ポーチやテラス、園庭で入居者が日光浴を楽しむ場面が見られる。玄関脇で犬が飼われており、入居者が自然と集まっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

併設事業所として様々なサービスがあることから、入居から退居までの全てにおいて、総合的な継続支援が可能である。24時間365日の看護相談体制があり、医療面において安心感がある。専門的な栄養計算は実施していないが、栄養士による献立チェックがあるので、栄養バランス面も安心感がある。環境面では大通りから奥まった場所にあるので、静かで落ち着いた雰囲気、交通事故などの心配が少ないと、ご家族にも喜ばれている。サービス面では、家庭的でほっとするような雰囲気の中での、臨機応変なサービス提供を心掛けている。現在重介護度の方も受け入れており、「少しでも長く出来得る限りGHでのサービス提供が継続できるように支援する」、を目標に、ご本人とご家族の支えであり続けたいと思っている。